

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

測定年度	令和5年度	学校コード	F111310102094	設置等組織名	理学部情報数理学科
大学名	城西大学	設置区分	私立	事業計画名	城西大学理学部情報数理学科の新設
学校種	大学	都道府県	埼玉県		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施阻害な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	■新学科設置の検討 1-①令和5年4月 数理学系新学科創設準備委員会設置 1-②令和5年5月～ 総合する大学の類似学部・学科の設定と分析を実施 1-③令和5年9月 情報数理学科人材育成懇談会設置 1-④令和5年10月～ 情報数理学科の養成する人材の企業等ニーズ調査開始（懇談会参加企業、理学部卒業生就職先等を予定） ■新学科の学生確保の見直し 1-⑤令和5年6月 学生確保の実績の分析および学生確保に向けた具体的な取組を行うための組織を設置 1-⑥令和5年10月～ 新学科の学生確保の見直し調査（外部委託によるアンケート調査）を実施 1-⑦令和5年10月～ 新学科の広報開始、ホームページパンフレット、受験生向けポータルサイトへの広告出稿開始	■新学科設置の検討 1-①令和5年4月 数理学系新学科創設準備委員会設置できず 1-②令和5年5月～ 総合する大学の類似学部・学科の設定と分析を実施 1-③令和5年9月 情報数理学科人材育成懇談会設置できず 1-④令和5年10月～ 情報数理学科の養成する人材の企業等ニーズ調査開始（懇談会参加企業、理学部卒業生就職先等を予定） ■新学科の学生確保の見直し 1-⑤令和5年6月 学生確保の実績の分析および学生確保に向けた具体的な取組を行うための組織を設置 1-⑥令和5年10月～ 新学科の学生確保の見直し調査（外部委託によるアンケート調査）を実施 1-⑦令和5年10月～ 新学科の広報開始、ホームページパンフレット、受験生向けポータルサイトへの広告出稿開始 【追加内容】 令和5年12月 収容定員60人から80人の増加申請	R5年度自己評価 【2】計画を十分には実施していない。 新学科の立ち上げに向けて協議は行ってきたが、令和5年4月には正式な委員会を立ち上げるには時期尚早で、ある程度メンバーや内容が具体的にってから「情報数理学科設置準備室」と名称を変更し、令和6年4月に正式な形で設置した。情報数理学科人材育成懇談会については、設置申請前で十分議論出来なかったが、今後、官公庁、自治体、企業等と協力しながら準備を進める。	
	■東京紀尾井町キャンパス5号棟新築工事 2-①令和5年10月～令和6年1月 基本設計 2-②令和6年2月～5月 実施設計		R6年度自己評価 リストから選択してください。	
認可申請又は届出	令和5年12月 収容定員の総数の増加（20人） 認可申請予定 令和6年4月 理学部情報数理学科 学科の設置届出予定	令和5年12月 収容定員の総数の増加（20人） 認可申請	○年度自己評価 リストから選択してください。	
フェーズ2	1-①令和6年4月～ 情報数理学科の養成する人材の企業等ニーズ調査継続 新学科の広報、ホームページパンフレット、受験生向けポータルサイトへの広告出稿		○年度自己評価 リストから選択してください。	
	■東京紀尾井町キャンパス5号棟新築工事 2-①令和6年6月～7月 地上解体工事 2-②令和6年6月～8月 入札、契約 2-③令和6年9月～令和7年3月 新築工事（地下解体含む。）（1年目）		R5年度自己評価 【1】計画を実施していない。	
開設又は定員増	令和7年4月 理学部情報数理学科開設予定（入学定員80人、理学関係） 令和7年4月 理学部情報数理学科定員増予定（入学定員80人、理学関係）			
フェーズ3	■東京紀尾井町キャンパス5号棟新築工事 2-①令和7年4月～令和8年7月 新築工事（2年目・3年目） 2-②令和8年7月 紀尾井町新5号棟竣工 2-③令和8年8月 什物の搬入及びAVシステム等の設置		○年度自己評価 リストから選択してください。	
	3-①令和7年4月 新学科創設記念シンポジウムの開催 3-②令和7年6月～ 高校訪問による広報活動開始（4年連続） 3-③令和7年8月～ 高校生を対象とした情報数理学サマースクールを実施（年2回、令和10年8月まで8回開催） 3-④令和8年5月 紀尾井町AI・データサイエンスコンソーシアムの創設 3-⑤令和9年8月～ 国際インターンシップを2回実施（令和10年8月にも実施） 3-⑥令和10年4月～ 社会人を対象としたリカレント教育を開始		○年度自己評価 リストから選択してください。	
定員減又は学部等の廃止	令和7年4月 理学部数学科60人減員に係る届出予定 令和7年4月 薬学部薬学科60人減員に係る届出予定		○年度自己評価 リストから選択してください。	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	城西大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

- 該当しない場合は、チェックしてください。
- i) 学生募集停止中の大学
- | | |
|------|--------|
| 該当無し | ■ チェック |
|------|--------|
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- | | |
|------|--------|
| 該当無し | ■ チェック |
|------|--------|
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額措置を受けた大学
- | | |
|------|--------|
| 該当無し | ■ チェック |
|------|--------|
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- | | |
|------|--------|
| 該当無し | ■ チェック |
|------|--------|
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
- | | |
|------|--------|
| 該当無し | ■ チェック |
|------|--------|

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>■ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	■ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	■ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の枠組みを活用するなど出口における資保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	■ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	■ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せた水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>■ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	■ チェック			
計画通りに進んでいる	■ チェック					

フローアップ対象年度	令和5年度	大学名	城西大学
------------	-------	-----	------

⑬

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑭

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

⑮

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報数理工学科（仮称）においては、設置構想段階より学長のリーダーシップの下で「数理系新学科創設準備委員会」を設置し、本理学部数学科の強みと新たな教員候補者の強みを掛け合わせた教育研究のあり方について検討を重ねてきた。数学を基礎に、データや情報に関わる社会の課題の抽出とその解決を意図した課題解決型の教育を行うことを教育研究の柱とし、他大学での教育経験者および複数人の実務家教員の新規採用を行う。「情報数理工学科人材育成懇談会」を通じ、近隣の世界的なIT企業を含む情報系企業、官公庁、自治体等のネットワークを構築し、それらのメンバーから非常勤講師等の派遣を要請する。企業等が提示する実社会の課題を反映したテーマをPBL形式で学ぶ「課題解決ゼミナール」や、最先端の知見を学ぶための「情報数理特論」、その他PBL形式の演習科目を設ける予定である。また将来的には、自主化のために紀尾井町AI・データサイエンスコンソーシアムを結成し、近隣にある企業、公的機関、大学と教育研究面で連携する体制を整える。統計数理研究所とは、本学キャンパス内のサテライトオフィスの設置など具体的な連携の構想の議論を始めている。	「数理系新学科創設準備委員会」は、名称を「情報数理工学科設置準備室」に名称を変更し、室長教員1名、副室長教員2名、室員教員4名、事務職員3名の構成で、2024年4月1日に設置され、他の情報数理工学科を予定する教員も含めて、数理に基づくデータサイエンス・AI、情報教育による人材育成を目指して、情報数理工学科のデプロマボリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを作成し、カリキュラムの内容を具体化するとともに、教育実習、インターシップ、海外演習等に関して検討を進めた。それと同時に、他大学の教育経験者および企業の人材を新たに雇用して体制の充実を図り、さらに追加の人材確保を予定している。情報数理工学科としての外部連携に関しては、各種企業、地方自治体における学生のインターシップ受け入れの内諾を得るとともに、地方自治体のIT促進に関わるプロジェクト等との連携も進め、企業や自治体と連携した科目についての検討も進めている。また、首都圏外の大学との連携も進め、大阪成蹊大学、熊本大学、熊本学園大学、神戸学院大学から連携に関する合意を得ている。特に、大阪成蹊大学とは、互いにオンラインの講義をやり取りする方向で議論が進んでいる。今後、近隣のIT企業等との連携も進めていく予定である。	企業とコンソーシアムを結成するに際し、情報数理工学科の設置申請が終わっていない段階では、企業において十分に議論が進まないため、設置が認められた後、企業とのコンソーシアムの設置を進めたいと考えている。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☒ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
アドミッションポリシーに基づき、総合型選抜、一般選抜等の科目の見直しを行う予定である。特に高校の学習指導要領の変更に対応した入試の初年度であることに鑑み、科目の軽量化、必要な科目の重点化等の検討を慎重に行い、受験生に過度の負担を強いることなく、かつ入学者の学習に十分に対応できるような学力を有した学生確保が必要であると考える。そのために、情報系や統計の民間資格等を評価項目に加えること、数学の科目変更等を、入学前教育と合わせて検討している。また、近隣の中学高校を対象にした出張授業を実施し、地域の学校との連携を深める。女子の理系進学へのニーズが高まっているが、東京紀尾井町キャンパス周辺には女子高校も多いため、出張授業に加えて、オープンキャンパスの際に女子中高生向けの企画を設け、女子学生の確保に努める計画である。紀尾井町は企業集積度が極めて高く、データサイエンスの教育を基礎から受けたいという社会人からのニーズが高いと考えられる。社会人が参加しやすい形でリカレント教育やミクスリング教育を行うことも検討している。海外からの入学者の確保に関しては、海外広報を積極的に行い、書類選抜推薦型のアドミッション方式による、渡日を要求しない形で入学試験の実施も検討している。	2025年度入試において、共通テスト利用選抜（1前期期、1期後期）の出題科目として「情報I」を必須とするともに、数学と情報と同じ比重で評価することにした。また、総合型選抜では数学、情報、統計に関連した（民間、国家）資格試験合格者については、出願書類の審査や面接審査（口頭試問）の中で評価することになっており、さらに課題レポートに対する指定図書や数学、情報、統計と幅広い分野から選択できるよう配慮した。このように、埼玉坂戸キャンパス数学科と差別化しつつ、想定される新規受験層へのアピールを行っている。2024年6月から7月にかけて、東京紀尾井町キャンパス所属教員が担当する首都圏の高校を対象にした出張授業（数学・情報科学）を3件（東京2件、千葉1件）実施することになっている。今後さらに首都圏の高校への個別授業を積極的に実施していく予定である。情報系受験生の新たなターゲットとして、首都圏の女子学生にアピールするHP作成などを検討し、正式認可後の8月のオープンキャンパスでは情報系の色彩を打ち出すことで、女子学生の確保に努めていく。例年夏から秋に開催している東京紀尾井町キャンパス数学科主催の情報数理体験講座を今年も9月（日程調整中）に開催する予定である。これまでの対象者は高校生であったが、この枠を外し社会人等も含めた参加を広く募ることにしており、社会人受け入れ対策の一つになるものと考えている。	情報数理工学科では数学と情報を同程度の重みで教育することを受験生に知ってもらうために、共通テスト利用選抜において「情報I」を必須化し、入試科目の軽量化・重点化から方針転換した。また、海外からの入学者の確保に関しては、海外広報を積極的に行っていくが、新たな留学生入試実施方法の具体的な体制は整っておらず、次年度以降の入試制度設計において、対策を図っていく。

大学名	城西大学
-----	------

1.本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	城西大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1660	1660																	
		入学者数	人	1582	1407																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	0																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,660	1,660																	
		入学者数(B)	人	1,582	1,407																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.95	0.85																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	7140	7140																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	6948	6598																	
		編入学者数	人	23	15																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.97	0.92																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		204,552	211,743	298,096	293,011	241,025	272,078													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	248,593
本事業による助成金の額(F)	千円	514,550
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	261,457

特記事項